

誰もが安心して悩みを相談できる社会の実現を呼びかけた田中由美さん 19日午後、松山市築山町



## 悩み相談でできる社会に

松山で市青少年育成市民大会

### 不登校生支援 教諭が講演

第17回松山市青少年育成市民大会（市青少年育成市民会議主催）が19日、同市築山町の市青少年センターであり、不登校となった生徒を受け入れ再スタートの機会を提供する専門コースを普通科内に設けている松山学院高校（同市北久米町）の田中由美教諭が講演し、

誰もが悩みを相談できる社会の実現を訴えた。

田中教諭は、県内で不登校の児童生徒数は増え続けていると説明。学校に行かない選択肢もあるという認識が広まってきた一方、「心が弱いからだ」「親の甘やかしが原因だ」といった捉え方をする人も存在すると

問題視した。

不登校は特別なことではなく誰にでも起きる可能性があるとし、「家にこもっている時間は、子どもたちが次の一步を踏み出すタイミングを待っている時だと認識することが重要」と説明。学校に通えない子ども増加は「社会の急激な変化に対し、従来の学校教育や家庭生活のあり方では対応しきれなくなっていることを示唆している」とし、これまでの価値観の見直しが必要だと語った。

自身も生徒と日々接する中で「自分の価値観や経験則を通して見てしまっている」と思い知る時がある」とした上で、「自分のフィルターを通して見ているという自覚があれば、生徒へのまなざしは違ってくる」と力を込めた。「一人一人に寄り添うことがスタートライン。本人や保護者が、いつでも安心して『助けて』と声を出せるつながりをつくっていきましょう」と呼びかけた。

（中田佐知子）